

同窓会便り

発行
東北大学 電気・通信・電子・情報同窓会
仙台市青葉区荒巻字青葉
TEL 022-222-1800
発行責任者
緒方 研二
(題字 緒方研二氏)

西澤潤一教授の

文化勲章受章を祝して

緒方 研二



この度、昭和二十三年に東北大学工学部電気工学科を卒業された西澤潤一教授(半導体研究振興会 半導体研究所長、電気通信研究所長)が、文化勲章を受章されました。このことは西澤教授ご自身も大変な喜びであり、また、同部金次郎博士に次ぐ二度目の快挙に接したことに喜びを表して心からお祝い申し上げます。

西澤教授の研究業績は大変広範囲に及りますが、半導体の研究に取組まれたのは恩恵にあずかるものとして、西澤教授のご指導によるものと聞いております。また、昭和三十六年には財半導体研究振興会、半導体研究所が設立され、これが西澤教授の研究活動を軌道にのせることに大きな役割を果たしたものと見ることが出来ます。

西澤教授の研究姿勢が独創性に対する戦いであったことはよく知られていますが、近年、「いかにしたら独創性が育つか」という問題が国内外で広く論じられておりますので、身を以て独創に挑戦された西澤教授の業績は誠に傾聴に値するものであります。西澤教授は、独創技術というものは、発明者あるいは研究者の個性と強く結びついたユニークな発想が重要なモチベーションであると思っております。また、そういう要素が非常に大きいので誰にでもできるものではない。しかし、だからといって同時代に同じ分野の研究に携わっている人達の発想がそう違っても思えない。つまり独創的と言われる研究と、普通の研究との違い、あるいはその差はほんの少ししかないように思われる。もっともその少しの差を認識することが重要なものではある。

西澤教授がこのような確信と環境の中で育ったことは、独創的な研究業績は枚挙に遑がありませんが、半導体電子素子の研究、光通信及びオプトエレクトロニクス、半導体完全結晶の研究に大別されます。その中でも、静電誘導トランジスタ(S-IT)は超低消費電力高速トランジスタとして、また、高周波大電力トランジスタとして従来にならぬ優れた特長を発揮し、次世代トランジスタとしての期待が大きいものであります。光通信における光の発生、伝送、検波の基本要素を世界に先駆けて発明、提案をされたことが、最近特に力を入れたらるる研究は、ガリウム砒素などの化合物半導体結晶の化学量論比を制御して高品質の結晶材料をつくらうとする「完全結晶育成技術」であると聞いております。

今後の期待は、世界のトップに立つ西澤教授がさらに研究業績を高められると共に、次世代の人材を育てていただくことにあると思っております。松前重義先生の発想から生じているエレクトロニクス発展のあゆみが、これらの方々へさらに引き継がれることを念願してお祝いの言葉を致します。

抜山平一先生

御生誕百年祭開催される

城戸 健一

昭和の初期から戦後にかけての電気系の指導者であられた抜山平一先生は、明治二十二年九月二十三日のお生誕で、平成元年はちょうど百年目にあたる。そこで、先生の最高の弟子である松前重義先生を中心として百余名の門下生が集まり、抜山平一先生御生誕百年祭が九月二十二日に仙台プラザホテルで行われた。

ご子息ご令嬢をはじめ、お孫さんや曾孫さんにもお集りいただいた。百年祭は、わが電気系の栄光の中の抜山平一先生を語る松前重義先生の祝辞を中心に厳粛に取り行われたが、その後の祝賀パーティーは、数十年前より

で顔を合わせたというO Bも加わっての賑やかな会になり、互いに年をとったことも、時が経つことも忘れての歓談の渦は、定刻に達しても止まらうとはしなかった。

百年祭最大の行事は、本同窓会便りの平成元年二月二十二日号に紹介されている、エレクトロニクス歩みの主催で行われた、エレクトロニクス研究の発展と抜山先生の思い出と題する座談会であった。この座談会は、福島弘毅名誉教授の司会、青柳健次、遠藤義夫、岡田幸生、藤方研二、小林宏治、佐藤博、中島茂、松前重義という先達によって、百名の聴衆の前で一

同級会開催のお薦め

「同窓会名簿」をもとに幹事を代行します。次の事項をご連絡下さい。

- クラス名(学科及び卒業年)
- 開催日時と場所(地図等)
- 返信の切
- 幹事名と返信はがきの宛先
- その他連絡事項

※申し込みは開催予定日より三十日前までにお願いします。

※必要経費 後日佐藤印刷より請求いたします。

※申し込み先 〒983仙台市六丁の目西町二二二 (株)佐藤印刷所(担当者/小野)

★問い合わせは、はがきにてお願いします。

永井健三先生を

偲んで



岩崎 俊一

刻、病院からの知らせを受け、急いで病院に駆けつけました。永井健三先生には数日間の御病状が更に重くなり御危篤の状態でした。それまでの二十年か月にわたる御入院生活の間に何度か危機が

「エレクトロニクス発展のあゆみ調査会」についてIII

佐藤 利三郎

昭和六十一年一月二十日に発足した(略称)あゆみ調査会について、は六十二年及び六十三年の同窓会便りに紹介しました。ここでは平成元年における調査会の状況を報告いたします。

一、募金については昨年引続き各方面に依頼し、四月にようやく見通しがたち、電気関連学会会田新役員・卒業生(二〇〇名)による約四〇〇万円、N T T、日立、東芝、三菱、沖電気、日本電気、富士

木村瑞雄先生を

偲んで



小島 正美

木村瑞雄先生は平成元年七月一日心不全のため御逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は昭和十五年三月東北帝国大学工学部電気工学科を御卒業され、同年東洋通信機株式会社に入社され、一年半で母校に戻られ通信工学科助手となり、昭和二十一年電気通信研究所助教授その後信州大学工学部に入社された。この間、真空管の基礎的研究、開発から工業製品の確立に至るまで大いに尽力されました。昭和二十三年大学電気通信研究所教授に就任し、研究と教育に従事、同三十年には東北大学教授兼任の要職に就任された。終戦後、郵政省電波管理局長に任命され、我が国の電波行政の基礎を確立しました。昭和三十一年電波管理局局長退任後は、電子技術審議会、N H K 経営委員会、日本科学技術情報センター長、エレクトロニクス協議会長などの要職を歴任しました。先生は大変温厚で愛

浜田成徳先生を

偲んで

関 寅雄

浜田成徳先生は平成元年七月一日、入院先の病院で急性心不全で

永眠されました。享年八十八歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は東京都出身で、大正十四年東京帝国大学工学部電気工学科卒業後、東京芝浦電気に入社、昭和十七年には同社電子工業研究所長に就任しま

一、網島毅、久保俊彦、森田清、井深大、米沢滋、松本秋男、難波捷吾、米沢平次郎、田中信高、高崎昇昇など約四十名の方々と対談の録音をとって、その整理を行った。

四、昭和二十年までの文献の収集については実行委員会を中心に着手し、学会誌並びに東北大学図書室にあるもの、先輩各位から提供して頂いたものなどが多数集まって来ている。

五、抜山平一先生の御生誕百年祭を、本調査会を中心に実施することとし、仙台の準備委員会を二月に発足し、打合せを五回行い、九月二十二日ホテル仙台プラザで盛大に開催した。

六、永井健三先生の御葬儀、浜田成徳先生を偲ぶ会に關連の記録の調査会を目的とする整理などを行った。

後世に伝える具体的計画案は、これらの整理

清水 洋先生 御退官

永年東北大学電気通信研究所および工学部で研究と教育に力を尽くしてこられた清水洋先生は、平成元年三月三十一日をもって東北大学を御退官になりました。

清水洋先生は新潟県の御出身で、昭和二十三年に東北大学工学部電気工学科を御卒業後、直ちに東北大学電気通信研究所助手として奉職され、昭和三十年には助教授に、次いで昭和三十三年には工学部教授に昇任されました。以来通信工学部電気音響学講座を担当され、多数の研究者や技術者の育成に尽くされました。この間一貫して超音波工学の研究に従事され、今日超音波エレクトロニクスと総称される分野の発展に大きく貢献されました。

通研時代には、共同研究により画期的に高効率のN i - C u - C o フェライト磁歪振動子で世界に先駆けて開発・実用化されました。この業績により全国発

移られた十四年間の教育・研究活動の後再び母校に戻られ東北大学工業教員養成所(東北大学工学部)教授、電気通信研究所及び工学部の併任教授になられました。昭和四十三年四月に東北工業大学(東北工大)に招かれてから、昭和四十六年三月まで東北工大の学長として創立間もない東北工大の発展に御尽力されました。この間、先生は電子通信学会、日本音響学会で評議員、理事、支部長などを歴任され、学会の発展に貢献されました。平成元年七月

情豊かな人柄で、上下の区別なく誰にも誠意を持って接しられました。一方信念が強く、古武士の風格の持ち主で、また先見性に富んでおられました。終戦直後、畏友松前重義先生を助けて東海大学に守り通し、再び松前先生にお返しされたのは先生の友情と無敵の現れだと思います。また電波管理局長時代に、大変困難と見られていたテレビチャンネルの割当を見事に遂行できたのは、先生の識見、公正な判断及び外圧にも屈しない強い信念によるものと思います。

を受賞されておられま
す。工学部に移られた後
の昭和四十四年には、
圧電体のみならず、新
しい横波弾性表面波
を発見されました。こ
の波は、ブルースタイ
ンおよびグレイエフに
よっても独立に発表さ
れ、三者の頭文字をと
って BGS 波とも呼ば
れております。また、
この波がタンタル酸リ
チウム結晶の 360 度回
転に存在し、優れた特
性を持つことを見出し

村上孝一先生 御退官

永年本学工学部電気
情報系にあって研究と
教育に尽力されてこら
れた村上孝一先生は昨
年三月三十一日をもつ
て東北大学を御退官に
なられました。

注がれ、新しい型の
エネルギー閉じ込め振
動の存在を明らかにし
てショックレールの理
論を拡張し体系化する
とともに、SAW 共振子
にもこの閉じ込めの概
念が適用できることを
示されました。

村上先生は若手県種
市町の御出身で、昭和
二十六年に東北大学工
学部電気工学科を卒業
後、大学院特別研究
生として研究を続け、
昭和三十三年本学電気
工学科に奉職され、助
手、助教を経て昭和
四十四年に教授に昇任
されました。以来、一
般電気工学講座、後に
電力応用工学講座を担

を注がれ、新しい型の
エネルギー閉じ込め振
動の存在を明らかにし
てショックレールの理
論を拡張し体系化する
とともに、SAW 共振子
にもこの閉じ込めの概
念が適用できることを
示されました。

村上先生は若手県種
市町の御出身で、昭和
二十六年に東北大学工
学部電気工学科を卒業
後、大学院特別研究
生として研究を続け、
昭和三十三年本学電気
工学科に奉職され、助
手、助教を経て昭和
四十四年に教授に昇任
されました。以来、一
般電気工学講座、後に
電力応用工学講座を担

を注がれ、新しい型の
エネルギー閉じ込め振
動の存在を明らかにし
てショックレールの理
論を拡張し体系化する
とともに、SAW 共振子
にもこの閉じ込めの概
念が適用できることを
示されました。

村上先生は若手県種
市町の御出身で、昭和
二十六年に東北大学工
学部電気工学科を卒業
後、大学院特別研究
生として研究を続け、
昭和三十三年本学電気
工学科に奉職され、助
手、助教を経て昭和
四十四年に教授に昇任
されました。以来、一
般電気工学講座、後に
電力応用工学講座を担

支部便り

東京支部

平成の時代に突入
し、日本の政治、経済
科学技術の倍増、経済
ローカル化が叫ばれる
なか、同窓生諸兄にお
かれましては、各分野
で精力的に活躍のこ
とと存じます。

を注がれ、新しい型の
エネルギー閉じ込め振
動の存在を明らかにし
てショックレールの理
論を拡張し体系化する
とともに、SAW 共振子
にもこの閉じ込めの概
念が適用できることを
示されました。

を注がれ、新しい型の
エネルギー閉じ込め振
動の存在を明らかにし
てショックレールの理
論を拡張し体系化する
とともに、SAW 共振子
にもこの閉じ込めの概
念が適用できることを
示されました。

を注がれ、新しい型の
エネルギー閉じ込め振
動の存在を明らかにし
てショックレールの理
論を拡張し体系化する
とともに、SAW 共振子
にもこの閉じ込めの概
念が適用できることを
示されました。

我が東京支部でも、
同窓会活動の一層の活
性を狙いとして、①
総会の活性化、②同窓

を注がれ、新しい型の
エネルギー閉じ込め振
動の存在を明らかにし
てショックレールの理
論を拡張し体系化する
とともに、SAW 共振子
にもこの閉じ込めの概
念が適用できることを
示されました。

を注がれ、新しい型の
エネルギー閉じ込め振
動の存在を明らかにし
てショックレールの理
論を拡張し体系化する
とともに、SAW 共振子
にもこの閉じ込めの概
念が適用できることを
示されました。

同窓会便り

株日立製作所

昨年、年号が昭和か
ら平成に改まり、また
本年は一九九〇年に入
るなど、二十一世紀へ
向けて新しい時代に
移りつつある年であり
ます。最近の日本経済
は安定した成長を維持
し、史上三番目の好況
期間を更新し続けてお
ります。しかし、対外
的には経済摩擦が激化
し、従来の輸出依存経
済から、内需主導へ
大きく方向転換を余儀
なくされ、その需要の
内容も質的变化が進ん
でいます。我が日立製

業の充実、拡大に努力
して居ります。日立
製作所は、コン
ピュータ、半導体、家
電、情報通信機器から
電力、重機、産業機器
まで先端技術分野の
非常に幅広い製品を
扱っていることとな
り、二〇二〇年を以
て、現在のお成長の過
程にあり、日立製
作所が、規模や製品の
多様さにも拘らず成長
を続ける秘密は、経営
陣の手腕と同時に、社
員の若々しい活力と意
識の高さがその根源に
あると確信致しま
す。このように、変
化に対応した施策と研
究開発の強化により、
日本経済の健全な発展
に寄与すると共に、社

業の充実、拡大に努力
して居ります。日立
製作所は、コン
ピュータ、半導体、家
電、情報通信機器から
電力、重機、産業機器
まで先端技術分野の
非常に幅広い製品を
扱っていることとな
り、二〇二〇年を以
て、現在のお成長の過
程にあり、日立製
作所が、規模や製品の
多様さにも拘らず成長
を続ける秘密は、経営
陣の手腕と同時に、社
員の若々しい活力と意
識の高さがその根源に
あると確信致しま
す。このように、変
化に対応した施策と研
究開発の強化により、
日本経済の健全な発展
に寄与すると共に、社

業の充実、拡大に努力
して居ります。日立
製作所は、コン
ピュータ、半導体、家
電、情報通信機器から
電力、重機、産業機器
まで先端技術分野の
非常に幅広い製品を
扱っていることとな
り、二〇二〇年を以
て、現在のお成長の過
程にあり、日立製
作所が、規模や製品の
多様さにも拘らず成長
を続ける秘密は、経営
陣の手腕と同時に、社
員の若々しい活力と意
識の高さがその根源に
あると確信致しま
す。このように、変
化に対応した施策と研
究開発の強化により、
日本経済の健全な発展
に寄与すると共に、社

業の充実、拡大に努力
して居ります。日立
製作所は、コン
ピュータ、半導体、家
電、情報通信機器から
電力、重機、産業機器
まで先端技術分野の
非常に幅広い製品を
扱っていることとな
り、二〇二〇年を以
て、現在のお成長の過
程にあり、日立製
作所が、規模や製品の
多様さにも拘らず成長
を続ける秘密は、経営
陣の手腕と同時に、社
員の若々しい活力と意
識の高さがその根源に
あると確信致しま
す。このように、変
化に対応した施策と研
究開発の強化により、
日本経済の健全な発展
に寄与すると共に、社

業の充実、拡大に努力
して居ります。日立
製作所は、コン
ピュータ、半導体、家
電、情報通信機器から
電力、重機、産業機器
まで先端技術分野の
非常に幅広い製品を
扱っていることとな
り、二〇二〇年を以
て、現在のお成長の過
程にあり、日立製
作所が、規模や製品の
多様さにも拘らず成長
を続ける秘密は、経営
陣の手腕と同時に、社
員の若々しい活力と意
識の高さがその根源に
あると確信致しま
す。このように、変
化に対応した施策と研
究開発の強化により、
日本経済の健全な発展
に寄与すると共に、社

業の充実、拡大に努力
して居ります。日立
製作所は、コン
ピュータ、半導体、家
電、情報通信機器から
電力、重機、産業機器
まで先端技術分野の
非常に幅広い製品を
扱っていることとな
り、二〇二〇年を以
て、現在のお成長の過
程にあり、日立製
作所が、規模や製品の
多様さにも拘らず成長
を続ける秘密は、経営
陣の手腕と同時に、社
員の若々しい活力と意
識の高さがその根源に
あると確信致しま
す。このように、変
化に対応した施策と研
究開発の強化により、
日本経済の健全な発展
に寄与すると共に、社

業の充実、拡大に努力
して居ります。日立
製作所は、コン
ピュータ、半導体、家
電、情報通信機器から
電力、重機、産業機器
まで先端技術分野の
非常に幅広い製品を
扱っていることとな
り、二〇二〇年を以
て、現在のお成長の過
程にあり、日立製
作所が、規模や製品の
多様さにも拘らず成長
を続ける秘密は、経営
陣の手腕と同時に、社
員の若々しい活力と意
識の高さがその根源に
あると確信致しま
す。このように、変
化に対応した施策と研
究開発の強化により、
日本経済の健全な発展
に寄与すると共に、社

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

その結果、出席者総数
はこれまでになく二〇
〇名弱にのぼり、大変
に盛り上がった総会に
なりました。会場では、
参加者全員に「企業間
連絡に便利に」ネット
ワーク化活動名簿「お
よび企業紹介パンフ
レット」を配布し、新た
な話題となりました。

次に、産・学・官の
情報交流では、活動の
基盤としてネットワーク
活動基金事業を提唱し
、御賛同頂いた企業
からの賛助金をベー
スに、昨年十一月には、
小規模ながら、東北大
学六教授、企業六社、
郵政省の協力を得て、
「第一回産・学・官
フォーラム」と称する
情報交流の場を設けま
した。その結果、産学
交流のあり方、十三に
及ぶ大学内研究会の紹
介、採用問題等につい
て、活発な意見、情報
交換がおこなわれ、参
加各位が有意義な交
換があったと喜ばれま
した。今後本フォーラム強

次に、産・学・官の
情報交流では、活動の
基盤としてネットワーク
活動基金事業を提唱し
、御賛同頂いた企業
からの賛助金をベー
スに、昨年十一月には、
小規模ながら、東北大
学六教授、企業六社、
郵政省の協力を得て、
「第一回産・学・官
フォーラム」と称する
情報交流の場を設けま
した。その結果、産学
交流のあり方、十三に
及ぶ大学内研究会の紹
介、採用問題等につい
て、活発な意見、情報
交換がおこなわれ、参
加各位が有意義な交
換があったと喜ばれま
した。今後本フォーラム強

次に、産・学・官の
情報交流では、活動の
基盤としてネットワーク
活動基金事業を提唱し
、御賛同頂いた企業
からの賛助金をベー
スに、昨年十一月には、
小規模ながら、東北大
学六教授、企業六社、
郵政省の協力を得て、
「第一回産・学・官
フォーラム」と称する
情報交流の場を設けま
した。その結果、産学
交流のあり方、十三に
及ぶ大学内研究会の紹
介、採用問題等につい
て、活発な意見、情報
交換がおこなわれ、参
加各位が有意義な交
換があったと喜ばれま
した。今後本フォーラム強

次に、産・学・官の
情報交流では、活動の
基盤としてネットワーク
活動基金事業を提唱し
、御賛同頂いた企業
からの賛助金をベー
スに、昨年十一月には、
小規模ながら、東北大
学六教授、企業六社、
郵政省の協力を得て、
「第一回産・学・官
フォーラム」と称する
情報交流の場を設けま
した。その結果、産学
交流のあり方、十三に
及ぶ大学内研究会の紹
介、採用問題等につい
て、活発な意見、情報
交換がおこなわれ、参
加各位が有意義な交
換があったと喜ばれま
した。今後本フォーラム強

次に、産・学・官の
情報交流では、活動の
基盤としてネットワーク
活動基金事業を提唱し
、御賛同頂いた企業
からの賛助金をベー
スに、昨年十一月には、
小規模ながら、東北大
学六教授、企業六社、
郵政省の協力を得て、
「第一回産・学・官
フォーラム」と称する
情報交流の場を設けま
した。その結果、産学
交流のあり方、十三に
及ぶ大学内研究会の紹
介、採用問題等につい
て、活発な意見、情報
交換がおこなわれ、参
加各位が有意義な交
換があったと喜ばれま
した。今後本フォーラム強

次に、産・学・官の
情報交流では、活動の
基盤としてネットワーク
活動基金事業を提唱し
、御賛同頂いた企業
からの賛助金をベー
スに、昨年十一月には、
小規模ながら、東北大
学六教授、企業六社、
郵政省の協力を得て、
「第一回産・学・官
フォーラム」と称する
情報交流の場を設けま
した。その結果、産学
交流のあり方、十三に
及ぶ大学内研究会の紹
介、採用問題等につい
て、活発な意見、情報
交換がおこなわれ、参
加各位が有意義な交
換があったと喜ばれま
した。今後本フォーラム強

次に、産・学・官の
情報交流では、活動の
基盤としてネットワーク
活動基金事業を提唱し
、御賛同頂いた企業
からの賛助金をベー
スに、昨年十一月には、
小規模ながら、東北大
学六教授、企業六社、
郵政省の協力を得て、
「第一回産・学・官
フォーラム」と称する
情報交流の場を設けま
した。その結果、産学
交流のあり方、十三に
及ぶ大学内研究会の紹
介、採用問題等につい
て、活発な意見、情報
交換がおこなわれ、参
加各位が有意義な交
換があったと喜ばれま
した。今後本フォーラム強

次に、産・学・官の
情報交流では、活動の
基盤としてネットワーク
活動基金事業を提唱し
、御賛同頂いた企業
からの賛助金をベー
スに、昨年十一月には、
小規模ながら、東北大
学六教授、企業六社、
郵政省の協力を得て、
「第一回産・学・官
フォーラム」と称する
情報交流の場を設けま
した。その結果、産学
交流のあり方、十三に
及ぶ大学内研究会の紹
介、採用問題等につい
て、活発な意見、情報
交換がおこなわれ、参
加各位が有意義な交
換があったと喜ばれま
した。今後本フォーラム強

